

# 学推だより vol.15

KOKURA  
Elementary School  
February 10th / WED / 2016  
発行：学推担当

## どのように「子どもの学び」をとらえるか③。

子どもの「学ぶ姿」とは。

前号に引き続き、子どもの学び（学ぶ姿）について考えていきます。今号は、生活科のおもちゃ作りの一場面から考えたいと思います。また、それに対する田村学先生（文科省初等中等教育局視学官）の解説もご紹介致します。

### 【事例】

おもちゃ作りで風車をを作っていた子どもがいた。みんなの前で二人一緒に回して見せるよう教師が促すと、それを見ていた一人の子どもがすぐさま発言した。

「あれっ。回り方が違うぞ。」

すると他の子どもから、

「段ボールの厚さが違うからかな。」

「作り方のせいかもしれないよ。」

「風を受ける所が広いからかなあ。」

「折り方が違うからだよ。ふんわりとしているよ。」

「隙間が空いていないほうが、風が当たるはずだよ。」

「隙間が空いていると風がにげるでしょ。風が通らない方が回るんじゃないかな。」

と豊かに学び合う発言が続いた。



### 【解説】

この場面には、二つの風車を比べることで、風車の回り方の**違いに着目し、その原因を明らかにしよう**としている子どもの姿がある。そして最後には、**因果関係で事象をとらえ考えようとする**低学年の子どもの姿が生まれた。

こうした子どもの姿は、二つの風車を比較することから始まった。しかし、**教師は一言も「比較しなさい」などとは言っていない。しかし、二人一緒に風車を回して見せることを指示している。ここに優れた教師の授業力がある。**



田村学先生

事例にある何気ないやりとりですが、**「事象の原因を明らかにするために、二つのものを（違いに着目して）比較する。そして、その因果関係を事象でとらえ考える」**という、まさに理科で求められる視点をもって、すでに活動をしている（学び合っている）子どもの姿がここにはありました。教師が二人一緒に回して見せることを指示することで、**理科で培う力をすでにここで経験させている**ことが大変素晴らしいと思いました。

仮にもし、私がこの場においてこのやりとりを受けて、「一緒に回してもう一度見せて」と言えるだろうか…。きっと言えずに、微笑んでいただけだと思います。大反省。子どもの学ぶ姿を的確にとらえる力。**その学びをとらえられる自分自身の感性が問われ続けているなあ**とまたまた痛感させられた事例でした。